

# キャンヘルプタイランド会報

2017年度(法人2期)

ネットワーク通信 Vol.76 合併号

Newsletter Vol.2

キャンヘルプタイランド会員の皆様

会員の皆様、明けましておめでとうございます。2016年はキャンヘルプタイランドの活動に温かいご支援を賜りありがとうございました。皆様からいただいたご支援、ご協力をもちまして、2016年もすべての活動を無事終えることができました。スタッフ一同、また支援を受けた子供たちに代わりまして改めてお礼申し上げます。

皆さまもご存じのとおり、2016年はタイにとって忘れられない年になりました。70年の長きにわたり国民に愛され続けたプミポン国王が不帰の客となり、タイ国民は悲しみにくれました。ご逝去後 100 日をもってバラエティー番組等の放送が解禁になり、テレビ番組や広告が以前のようににぎやかになると、黒や白の服を纏い喪に服し続ける人は相変わらず多いものの、タイの人々は悲しみを乗り越え、町の様子は、元に戻ったようにも見えます。

ただ、亡き国王の肖像画が今尚そこここに飾られている一方で、新国王の即位が発表され見慣れない肖像画を目にするようになり、また、映画上映前に放送される国王賛歌の映像が新国王のものに差し替えられているのを見たりして、「元に戻った」のではなく、やはり「時代が変わった」のだと気づかされるのです。

これからタイはどうなるのか、漠然とした不安を抱えながら、それでも市井の人々は逞しく生きていくでしょう。

私達キャンヘルプタイランドは 2017 年も引き続き恵まれない子どもたちのための教育支援活動を行っていきたいと思います。

経済成長を続けてきてタイは、近年では中進国と呼ばれるようになり、物価、給与水準ともに上昇を続けています。いわゆる中間層と呼ばれる層が厚みを増してきており、高等教育を受けようという層も以前とは比べ物にならないほど増加しています。それにともなって、中間層と貧困層との間の教育格差、それに起因する就労機会の差、経済格差も広がっているように見受けられます。加えて周辺国から単純労働者の流入も増加の一步をたどっています。

そこでキャンヘルプタイランドでは、タイ東北部における教育支援を続けながら、言葉の問題などからより教育支援を必要としている山岳部少数民族、またパイロットケースとしてカンボジアのタイとの国境周辺地域の学校に対する支援を行ってまいりたいと思います。

## もくじ

1、建設プログラム	2 ページ
2、奨学金プログラム	4 ページ
3、すみれ基金	5 ページ
4、山岳部少数民族プログラム	6 ページ
5、ランチプログラム	6 ページ
6、図書支援プログラム	6 ページ
7、国内活動	6 ページ
8、会計報告	7 ページ
9、理事運営委員紹介	8 ページ
10、ご寄付のお願い	8 ページ
11、会員募集と継続のお願い	8 ページ

皆様からも、引き続きキャンヘルプタイランドの各プログラムへのご協力、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

キャンヘルプタイランド  
会長 西川 弘達

# 1、建設プログラム

## ●タイ・サケート県カオティン学校図書館完成式

2016 年度の建設プログラムの実質的な活動はありませんでしたが、2015 年度に建設支援した、タイ・サケート県のバンカオティン学校の図書館が 2016 年 3 月に完成式を迎えることができ、その完成式が行われたためスタッフ 1 名が出席してきました。2015 年 8 月のワークキャンプでは 7 割ほどまで建設作業を行い、その後の完成までに 2 カ月ほどかかりました。そして、タイの小学校の長期休暇に入る日程に合わせ、盛大に完成式と引き渡し式を行いました。式には県の副教育庁をはじめ、地域の方々、国境を守る軍隊の方々、出入国管理官の方々が出席され、途中には子どもたちの踊りなども披露されました。



## ●カンボジア支援視察

2016 年度から本格的に開始しているカンボジア支援について、4 月から会員の皆様をお願いしてきた募金が順調に目標金額に達しましたので、2017 年 3 月に、第 1 回カンボジア小学校トイレ建設事業を開始することとなりました。その視察と打ち合わせのため、2016 年 8 月、12 月と 2 度、現地へ行ってきました。

8 月の視察では、支援対象校をカンボジア王国バットアン州サンパオルン郡タサダ村タサダ小学校と正式に決定しました。そして、12 月の視察では、2017 年 3 月にトイレ建設と共にワークキャンプを行うことをタサダ学校へ伝え、日程や宿泊、食事などの細かい打合せを行い、現地の受け入れ態勢を確認しました。

2017 年 3 月 1 日から 9 日まで第 1 回カンボジアトイレ建設ワークキャンプを行います。

## 2016 年 3 月カンボジア視察報告 ネットワーク通信抜粋

3 月 20 日早朝、チェンマイ国際空港からバンコク経由シェムリアップ行きの飛行機に乗り込みました。チェンマイからバンコクは 1 時間半のフライトで、バンコク・スワンナプーム空港の乗り継ぎで 2 時間ほど待ち、その後カンボジアのシェムリアップまでは 1 時間ちょっとです。正午にシェムリアップ国際空港に到着しました。そのまま 3 輪バイクタクシーを捕まえ、お昼過ぎにネットで予約していた街中のホテルに到着しチェックインを済ませました。シェムリアップ滞在時間があまりなかったので、空港から送ってくれた 3 輪バイクの運転手と交渉し、そのままアンコールワットなどの遺跡群の観光へ連れて行ってもらうことにしました。3 輪バイクの 1 日チャーターの相場は 15 ドルから 20 ドルということが後で分かったのですが、この時はとにかく時間がなかったので、運転手の言い値で半日 20 ドルという値段になってしまいました。おまけにアンコールワット遺跡群の入場料は 1 日券で 20 ドルです。アンコールトムなどのアンコールワット周辺にある遺跡にも入れるので、もし時間があれば 1 日ゆっくりかけて観光したいものです。一番暑い午後の観光だったのでかなり疲れてしまい、暗くなる前にホテルへ戻り、すぐに水シャワーを浴びて、ホテル近くの屋上で簡単な夕食を済ませ、夜 10 時には就寝しました。



次の日、いよいよカンボジアの田舎の小学校を視察するために、シェムリアップから西へ 300 キロほどのタイとの国境にある小さな町サンパオルンを目指します。ホテルのフロントでカンボジアータイ国境の街ポイペトへ行くバスチケットを手配し、午前 9 時にバスに乗り込みました。さすがに国境へ行くバスは西洋人の旅行者ばかりで、45 人乗りのバスは満席です。このバスは長距離を走るのに料金はたったの 5 ドルです。途中の街で 1 度だけトイレ休憩をとり、バスはまっすぐ国境を目指します。地図を見てもらえるとわかると思いますが、シェムリアップの街から国境のポイペトまでは西へまさに一直線です。15 年ほど前まではデコボコの土道で、途中でよく盗賊団が出ると噂されていましたが、今はきれいに舗装された快適な一本道です。ポイペトにはお昼に到着し、バスの他の乗客はそのままイミグレーションの

方へまっすぐ進んでいきます。僕はみんなとは反対方向へ進み、ポイバトから南西へ80キロほどのところにある小さな街へ行く方法を探します。もちろん路線バスなどあるはずもないので、必然的にタクシーを使うことになるのですが、このタクシーが曲者です。公共交通機関の発達していない国では乗合ワゴンなどが唯一の交通手段になるのですが、乗合であるため、時刻表などは存在しません。基本的には車が満員になったら出発です。人が集まらなければ2時間待っても3時間待っても出発しません。1台丸ごとチャーターしてしまうことも可能ですが、その場合は人数分の料金を払うこととなります。素晴らしく合理的なシステムです。今回も「サンパオルンの街まで行きたい。」とタクシー運転手に伝えると、「チャーターなら85ドル、乗合なら15ドルだ。」と言われました。もちろん後者を選びます。いつ出発できるかは誰にも分かりません。タクシー待合所でそのまま待ちます。他にもタクシーを待っている人が5人ほどいますが、すべてカンボジア人で、トランプゲームなどをして時間を潰しています。みんな行きたいところが違うので、それぞれ目的地が同じ人が現れてくれるのを待っているのです。そのまま2時間ほど待っていたら、「この車に乗れ！」と突然指示されました。その車には運転手の他にすでに5人の乗客が乗っています。助手席に1人、後部座席に4人乗った普通の乗用車です。普通ならこれを定員オーバーといいますが。どうやって乗るのか運転手に聞いたら、細身の女性2人が助手席に移動し、後部座席に4人で座りました。運転手を入れて合計7名乗車です。それですぐに出発するのかと思ったらそのまま30分ほど車内でまたされ、拳銃の果てには乗客の1人が突然下され、別のタクシーに連れていかれました。その後その人がどうなったかは誰も分かりません。元の6名乗車に代わったとたん、タクシーはおもむろに動き出しました。僕の目的地は運転手（運転手A）にちゃんと伝えてありますが、他の乗客に目的地を聞いてみると、僕のととは違っています。不安は募りますが、もうどうしようもありません。なるようにしかありません。そのまま、タクシーは午前中にバスで来た道を東へ15キロほど戻りちょっとした街に到着しました。そこで僕だけ下されました。僕の乗ってきたタクシーの運転手Aは、そこで待っていた別タクシーの運転手（運転手B）に二言三言話をして現金を渡したあと、走り去ってしまいました。僕は新しいタクシーの運転手Bに「ここで待っている。」と言われ、街角にあるガソリンスタンドのベンチに座らされました。要するにタクシーの乗客の中で、僕だけは目的地の方向が少し違ったようです。そのまま待つこと1時間半、たまたま通りかかった別タクシーの運転手（運転手C）と運転手Bが話をし、僕は運転手Cのタクシーに乗ることになったようです。そのタクシーにはすでに4人の乗客が乗っていました。そのまますぐにタクシーは南西方向へ走り始めます。ちゃんと僕の目的地と方向的にはあっています。途中の小さな村で他の乗客はどんどん降りていき、最後には僕一人になってしまいました。目的地にはまだ10キロほどあります。携帯電話にはGPS機能があるので、先に地図情報さえダウンロードしておけば、自分の現在地はすぐにわかります。もし、目的地ではない場所へ連れていかれそうになったらすぐにタクシーを止めようと、常に携帯の画面とにらめっこをしていました。結局、僕は、運転手Cによって無事に目的地に到着することができました。最初の15ドルが3人の運転手（ABC）にどのように配分されたかは謎のままです。まさにミラクルです。

夕方4時過ぎに、目的地のサンパオルンにある小学校に到着しました。昨年の8月にタイでのワークキャンプ中に少しだけ訪問した学校です。そのときはすぐ近くの現地の人しか使えない国境を使ってタイからカンボジアに入ったのですが、今回はビザを取り正式な国境を使って遠回りをしてやってきました。学校についてすぐに校長先生にお会いし、8月に撮った写真を渡しました。そして、職員室でこの学校のことや周辺の他の学校のことを少しインタビューしました。明日、周辺の小学校を案内してもらおう約束をして、この夜は学校の隣にあった小さなホテルに泊まることにしました。

翌早朝6時に学校横のホテルから夏のワークキャンプの時に通った国境まで行ってみました。歩いて500メートルほどなので、ちょうど良い散歩コースです。早朝にも関わらず国境はとても賑やかで、小さな子どもたちも荷役の仕事をしています。前回お世話になったカンボジア軍の人に写真を渡すために、本人の写真を見せながらウロウロして探しまわり、最後には居場所を突き止め、まだ寝ていたところを起こして写真を渡してきました。ちょっと迷惑そうでしたが、こうやって印象付けておけば、次回会ったときはちゃんと覚えていてくれるでしょう。ホテルまで戻り、ホテル前の屋台でおかゆの朝食を食べた後、子どもたちが登校し始めている学校へ行きました。学校では、昨日話した通り別の学校の先生が待っていてくれ、そのまま、大きな荷物学校職員室において、身軽な格好で迎えに来てくれた先生のバイクの後ろにまたがり、学校視察へ出発しました。

最初は、バイクで10分ほど走ったところにあるタサダ学校に到着しました。生徒数361人、先生10人の中規模の小学校で、5教室の細長い平屋の校舎が一つあるだけの学校です。カンボジアの学校はほとんどが2部制で午前は1・2・3年生、午後は4・5・6年生というように2つに分かれているので生徒に対して教室や先生の数は半分で済む計算です。ただ、1学年1クラスというわけではないので、2部制でもやはり教室不足になっているようです。半日授業なので学校給食制度はなく、お腹のすいた子どもたちは校庭にある売店でお菓子やパンなどのおやつを買うことができます。しかし、子どもたちの中には裸足で過ごしている子ども多数みられ、少なからず経済格差はあるようで、学校に通うことすらできない子どもも多くいるだろうと想像できます。この学校では、この地区を管轄している教育委員会の方が待っていてくれて、その方は英語が堪能なので、とても丁寧に視察の対応をしてくれました。教育環境についての現時点での一番の悩みは、トイレや手洗い場の不足だそうです。この地方の学校の校舎は、2000年から2008年頃にかけて日本財団が資金をだしカンボジア政府の協力のもと整備したようで、校舎の壁にはちゃんと日本財団の文字がペイントされていますが、その時に一緒に作ったトイレは150人の生徒に対して校舎の外に2つだけしかありません。トイレの増設は早急な課題のようで、とても熱心に援助要請をされるので、試しにトイレ4つの建築見積を聞いてみたところ2,000ドルから3,000ドルということでした。30万円弱の支援になると思われます。正直、「そのくらいなら何とかなるかも。」と思ってしまいました。ということで、急ですがカンボジアトイレ支援募金を始めます。



### ●タイ・メーホンソン県メーサリアン郡ポーソー村学校学生寮トイレ改築支援

タイでの建設支援ですが、2016年12月に、当会すみれ奨学生から出身校の支援をしたいので協力してほしいとの依頼があり、急遽、タイ北部メーホンソン県の山岳地帯の学校のトイレ改築支援の視察に行きました。支援対象校は、タイ北部メーホンソン県のメーサリアンという町から、西へ50キロほど山道を登ったところにあるミャンマーとの国境に近いポーソー村のポーソー村学校です。メーサリアンの街まで学校の先生に迎えに来ていただき、ピックアップトラックで未舗装の山道を2時間走り、ポーソー学校に到着しましたが、公共交通機関などはなく、山間の谷にあるポーソー村は街とは隔離され

た独特の雰囲気のある山岳少数民族の村でした。全校生徒 400 名のうち 300 名が学校で寮生活を送る小学校から高校までの大きな学校ですが、その寮にあるトイレ改築工事が今回の支援の対象です。学校との話し合いの結果、キャンヘルプタイランドは 10 万パーツの支援を決定しました。この建設事業も 2017 年 3 月に行われます。

2017 年度の建設プログラムは新しく始まったカンボジア支援やタイ北部メーホンソン県での支援など、規模は小さいですが、やりがいのある支援が目白押しです。今後とも皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

## 2、奨学金プログラム

2016 年度は新規 20 名を含め 116 名の子供たちを支援いたしました。11 月末日現在皆様からご寄付頂いた金額 92 万円と昨年からの繰越しが 40 万円あった為、上記 116 名と下記山岳部少数民族への 12 名に充当し、残余の 4 万円とその後にお預かりした金額の 4 万円（合計 8 万円）を次年度に繰越させていただきました。



昨年からの授与式の実施県を 5 県に絞り 6 県への継続生に対しては（授与式を実施せず）送金で 38 人への支援を実施しました。

当初の支援人数見込みは昨年度の 121 名から 10 名減の 110 名程を予定していましたが送金対応県からの申請辞退者や未連絡が昨年に比べて減少したため、全体では昨年より 5 名の減少となりました。

### ・奨学生の内訳

7 月上旬に \*印の 5 県は授与式を実施しました。（内田、山本が参加）

サッケオ県	5 名	ブリラム県	11 名	スリン県	6 名
シーサケット県	5 名	ヤソトーン県	5 名	サコンナコン県	6 名
ムクダハーン県*	17 名	ナコンパノム県*	17 名	カラシン県*	13 名
マハサラカーム県*	17 名	ロイエット県*	14 名		

### ・申請書類、手紙の翻訳

昨年に続き愛知県に在住のタイ人 10 名以上の協力で 8 月から事務所にて翻訳会を開催して楽しく翻訳作業を実施しました。ドナーの皆様には申請書類や手紙を同封し支援内容の報告をさせていただきました。

### ・クリスマス&年賀カードの送付

今年も 12 月中旬に奨学生 116 名全員にカードを送りました。

ぜひドナーの皆様も絵筆書や手紙を書いていただきたくお願いします。（事務局へお送り頂きますればタイ語に翻訳して当該奨学生に送ります）

### ・山岳部少数民族支援に対する奨学金支援

山岳部少数民族プログラムとの共同事業として今年度試行した「山岳部少数民族に対する奨学金支援」はカサロンの家の寮生から 16 名の応募があり申請内容を検討した結果、16 名全員への支援を実施しました。（12 名分は奨学金プログラムから 4 名分を山岳部少数民族プログラムから支出しました）




寮で生活をしながら学校へ通う彼らは寮での食費や生活費のほかに学校までの交通費、学用品や制服、日々の小遣い等現金を必要としており、一方彼らの家庭は現金収入が少ない中で教育を受けさせたい一心で子供達を寮生活させているのが現状で、一人当たり 3,000 パーツの支援金が本当に役に立っているとの実感を持ちました。この共同事業は今後もより効果的な支援の実施方法を模索していきます。

\*奨学金プログラムの支援は合計して 128 名となりました。

### 3、すみれ基金

2011年に発足したすみれ基金も6年目を迎えて、計画では奨学生募集の最終年度となります。過去5年間で20人の学生が大学、又は短期大学に進学できました。2012年度を終えて、初めての卒業生が社会人となり、それぞれの分野で活動していらっしゃいます。

2016年3月に提携団体「FREE」より百数十名の応募者を書類選考、電話や面談等を重ねて最終5名の候補者に絞られました。5名の候補者は選定委員5人の協議の結果2016年度は以下の3名をすみれ奨学生として支援しました。

	ナランヤー・カノックサンパンポーン（ジェーン） 女性 北部メーホンソン県出身 専攻：簿記 短大2年 4年制大学への編入希望 彼女は成績優秀で今年すみれ奨学生となって、来年は大学へ編入して引き続きすみれ奨学金の支援を希望しています。2017年に正規編入が確定した時点で2年間すみれ奨学生として支援いたします。
	セーンスック・ナンシー（ノン） 男性 北部チェンマイ県出身 カサロンの家 専攻：会計 メーファールアン大学 彼は「カサロンの家」の出身学生です。彼の頑張りは後輩たちにどれほどの励みになることでしょう。とても楽しい存在です。頑張ってくださいね。
	ガンボン・スーブシー（ボン） 男性 東北部スリン県出身 専攻：教育学 5年の支援希望 成績良い。祖母（母方）と伯父と一緒に住んでいる。伯父は体が不自由（仕事できない）。祖母は蚕の養殖している。生活費もほとんど伯母が出している。本人はアルバイトとしてダンスを教えたり、お店の手伝いなどをしたりして生活している。

計画では2016年度が最後の募集となっています。2016年度に3名の奨学生が決定して、「すみれ基金」募集奨学生・年度別・実施表としてまとめてみました。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	合計
001	○	○	○	○	○						5
002	○	○	○								3
003	○	○									2
004	○	○									2
005	○	○									2
006		○	○	○	○						4
007		○	○	○	○						4
008		○	○	○							3
009		○	○								2
010			○	○	○	○					4
011			○	○							2
012			○	○							2
013				○	○	○	○				4
014				○	○	○	○				4
015				○	○						2
016				○							1
017					○	○	○	●			4
018					○	○					2
019					○	○					2
020					○	○					2
021						○	○	●	●	●	5
022						○	○	●	●		4
023						○	○	●			3
人数	5	9	9	11	11	10	6	4	2	1	68
支援額	269,500	218,300	492,800	360,500	387,000	470,000	282,000	188,000	94,000	47,000	2,809,100

注：行は奨学生、列は奨学金支援年度を表します。 ●は支援予定

## 4、山岳部少数民族支援プログラム

山岳少数民族の子どもたちの学生寮「カサロンの家」には、毎年、8万バーツほどの支援をしてきましたが、寄付金の減少により、継続が困難になってまいりました。そこで、カサロンの家の子どもたちの支援を、奨学金プログラムに取り込み、本年度から、寮の子どもたちに奨学金として1人3,000バーツの支援に変更しました。本年度は16名の寮生に奨学金を支援し、総額48,000バーツの支援となります。

また、8月にはカサロンの家でスタディーツアーを行い、日本から5名の参加者があり、現地に1週間ほど滞在しカサロンの子どもたちとの交流を楽しみました。カサロンの家には滞在費等として5万バーツを支援することができました。

## 5、ランチプログラム

2016年度ランチプログラムは、支援対象校の選定に苦勞し、なかなか実施できませんでしたが、12月に北部メーホンソン県のポーソー学校を視察しました。この学校の子どもの多くは寮生活をしていて、3度の食事を学校でとっていること、また、炊事場などの環境がきちんと整っていないことが分かり、支援の必要性が確認できました。よって、2016年度のランチプログラムの支援は2017年3月に行うポーソー学校給食関連施設支援とします。

## 6、図書支援プログラム

石川県の射水市の図書館が主催する「手作り絵本コンクール」の応募作品3点と作品の共同作者である中高生12名に参加賞、入選した「楽しい影芝居」と「いつもとなりに」の賞状と記念品をタイへ送りました。

### ・よしふみ文庫

昨年8月に贈呈式を行ったバンノンサメット学校とバンサイトン学校の2校から活用状況の報告が来ました。両校とも本箱と一緒に贈ったためその他の本との混在が避けられており管理状況も良好なことがうかがえます。今後とも適切な管理と有効活用が期待されます。



## 7、国内活動

2016年度は、名古屋NGOセンター主催のイベント等に積極的に参加することができました。

- 6月     スタディーツアー合同説明会
- 10月    ワールドコラボフェス（ブース出展）
- 1月     ワールドエコカレッジ（スタディーツアー紹介）

また、FacebookなどのSNSの活用や、ブログなどのインターネット媒体の活用を始めました。募金活動として、READYFORというクラウドファンディングにも登録し、インターネットを利用した資金集めを開始しました。

## 8、2016年度会計報告(2016年2月1日~2017年1月31日まで)

## 貸借対照表

2017年1月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	18,755,005	【流動負債】	89,000
東京三菱 UFJ 預金	601,029	前受金	89,000
郵便振替口座	10,097,749	負債の部合計	89,000
タイ現金	110,875	資本の部	
タイ普通預金	5,873,810	【剰余金(欠損金)】	18,666,005
タイ定期預金①	1,801,269	当期末処分利益(損失)	18,666,005
タイ定期預金②	270,273	(うち当期利益(損失))	△1,724,493
		資本の部合計	18,666,005
資産の部合計	18,755,005	負債・資本合計	18,755,005

(注) 消費税の経理処理方式: 税込処理

タイ資産は交換レート 3.17 で円に換算した

## 損益計算書

自 2016年2月1日 至 2017年1月31日 単位:円

		経常損益の部
【営業損益の部】		
【営業収益】		
【売上高】		
売上高(会費)	108,278	
奨学金 寄付金	1,020,000	
図書 寄付金	31,700	
給食 寄付金	170,000	
建設 寄付金	15,000	
山岳 寄付金	40,000	
特別 寄付金	337,000	
運営 寄付金	22,000	
その他 寄付金	281,000	
売上高合計		2,024,978
【営業費用】		
【売上原価】		
タイ奨学金支援	2,447,179	
タイ図書支援	65,409	
タイ山岳支援	40,000	
タイ経費奨学金	288,839	
タイ経費 山岳	3,059	
タイ経費 建設	58,835	
タイ経費その他	1,030	
合計	2,904,351	
売上原価		2,904,351
売上総利益(損失)		△879,373
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		614,381
営業利益(損失)		△1,493,754
【営業外損益の部】		
【営業外収益】		
受取利息	40,708	
営業外収益合計		40,708
【営業外費用】		
利子への税金	5,954	
為替 差損	265,493	
営業外費用合計		271,447
経常利益(損失)		△1,724,493
税引前当期利益(損失)		△1,724,493
当期利益(損失)		△1,724,493
前期繰越損益		20,390,498
当期末処分利益(損失)		18,666,005

## 販売費及び一般管理費内訳書

自 2016年2月1日 至 2017年1月31日(単位:円)

広告宣伝費	8,000
旅費交通費	172,360
通信費	39,761
消耗品費	1,296
事務用消耗品費	35,018
水道光熱費	15,930
諸会費	10,000
支払手数料	11,827
地代家賃	142,560
郵送費	22,440
業務委託料	134,409
印刷費	20,780
販売費及び一般管理費合計	614,381

## 利益処分案

(単位:円)

当期末処分利益	18,666,005
次期繰越利益	18,666,005

田中與浩氏より 2017年2月11日に  
監査を受け承認されました。

## 9、2017年度の運営委員と理事の紹介

特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとして以下のような体制で運営いたします。

引き続き運営委員の募集を行っていますので、興味のある方は是非ご参加ください。

運営委員	西川 弘達 (代表理事長)	大矢 治夫 (代表副理事)	大矢 まゆ美 (理事)
	坂 茂樹 (理事)	松本 康裕 (理事)	内田 由布子
	藤井 佳奈	寺島 優美	山本 満紀子

## 10、ご寄付のお願い

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。銀行振込の場合で寄付金の使途を指定される場合は、別途、葉書かお電話、Eメール等でご連絡をお願いします。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…  
 会員になっていただいた方には、年 4 回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。  
 年 1 回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

＜郵便振替口座＞

口座名：NPO キャンヘルプタイランド 番 号：00280 - 2-43793

## 11、会員募集と継続のお願い

キャンヘルプタイランドでは、会の運営を円滑にするために運営費を支えていただける「会員」を募集しています。多くのNPOが寄付金の15～30%もの運営経費で運営されているのに対して、私たちは、わずか5%の経費しか計上していません。従って10年前から会員の皆さんの会費（年額3,000円）で運営費の不足分を補っているのが現実です。会員の皆さんには年4回の「ネットワーク通信」で活動の詳細をお伝えすると共に、各種行事のご案内もいたします。私たちの活動をよりスムーズにするために皆様のご協力をお待ちしております。

### お問い合わせ先

住所：〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43

日商ビル2階NPOステーション内

キャンヘルプタイランド事務局

TEL&FAX：052-566-5131

(事務所開設時間 土曜日 13:00-17:00)

Eメール：office@canhelp.jp

特定非営利活動法人

キャンヘルプタイランド会報

Vol.2

ネットワーク通信 Vol.76 合併号

発行：キャンヘルプタイランド

発行人：西川 弘達

編集人：坂 茂樹

発行日：2017年2月